

3

先行研究分析

Analysis of Prior Research

目次

1. 研究概観
2. 研究分野別分析:民衆運動
3. 研究分野別分析:宗教思想
4. 研究分野別分析:哲学的思惟方法
5. 主要研究者別観点(1)
6. 主要研究者別観点(2)
7. 東学思想と大巡思想の比較研究
8. 相関的思惟研究
9. 共時性研究とフラクタル科学
10. 東学思想研究の未進点
11. 総合および議論
12. 結論および今後の課題

研究概観

- 東学思想・大巡思想に関する先行研究は1,000編以上の論文で発展
- 主な議論: 「実学」から「東学」へ、自生的近代性の哲学的・宗教的・社会的含意の探求
- 研究領域: 民衆運動、宗教思想、哲学的思惟方法として区分

民衆運動分野の先行研究

- 東学民衆運動・東学農民革命など実際の社会運動の展開史の分析
- 方法論:社会科学的方法アプローチ、歴史的文脈の強調
- 主要研究の焦点:
 - 民衆の霊性的変化と意識構造の分析
 - 社会構造の変化と歴史的意義の照明
 - 宗教運動から社会運動への拡張過程

宗教思想分野の先行研究

- 東学と大巡の宗教思想比較研究の活性化
- 宗教思想的意義を探索する研究者たち
 - 張秉吉:民衆靈性、天地変化の原理、神明観
 - 鄭鎮弘:テオス(Theos)としての東学、東学を韓国宗教史の流れの中に位置付ける
 - 尹以欽:最高神形態、鄭鑑録の变革的世界観の継承
- 大巡思想の解冤相生:脱近代的代替的近代性として解釈

哲学的思惟方法分野の先行研究

- 過程哲学、相関的思惟、同時性、フラクタル科学など東西融合的分析の登場
- 主要学者:
 - 金敬宰(過程神学)－東学の神観を汎在神論として解釈
 - 金相日(新西学)－ハーツホーン、ジョン・カブの過程神学の適用
 - 朴宰周(周易的分析)－周易思想の過程哲学的分析
- 東学と大巡の哲学的近代性へのアプローチ:東洋伝統思想の思惟方法と現代科学哲学の接点の探索

主要研究者別観点(1)

東学思想と大巡思想を深く解釈した研究者たち

- ・ **張秉吉: 民衆靈性、天地変化論**

- 東学思想と大巡思想は基層民衆の靈性的世界観として理解
- 大巡思想では神明観、人間観、価値観などの総体的変化を伴う

- ・ **鄭鎮弘: 「テオス(Theos)」概念、東学の近代性の強調**

- 韓国宗教史をミメーシス(道教)、ミュートス(仏教)、ロゴス(儒教)、テオス(東学)として整理
- 東学は短い出現期間ではあったが、テオス(Theos)の始まりという重要な意味を持つ

- ・ **尹以欽、崔鍾成鄭鑑録新宗教との関連**

- 尹以欽:東学は『鄭鑑録』の変革的世界観を共有し、以後の新宗教の標本

崔鍾成:東学は「テオプラクシム(Theos)」という様式の中に、テオス、ミュー

主要研究者別観点②

- **姜敦求** 『正易』と韓国新宗教の差別性を強調、特に大巡思想において韓国的特徴を良く表現
- **盧吉明** 脱近代性と現代的現象としての大巡の解冤相生思想の研究、西洋近代性の危機に対する代案的近代性と評価 へ
- **金洪喆** 金山寺と真表律師を中心とする百濟弥勒信仰と東学大巡思想の地理的関連性の研究
- **ドン・ベイカー** 韓国人の靈性(靈性)を成す神(神)と道(道)の結合の観点から東学関連思想を解釈
- **柳東植** 風流(風流)神学を提示、韓国民間信仰の三大主流と東学大巡思想の関連性を探求

東学思想と大巡思想の比較研究

- 比較研究の核心的争点および代表的学者
 - 金芝河:政治的近代性(東学)vs 文化的近代性(大巡)
 - 金鐸:用語の比較および人間中心主義的アプローチ

東学思想

→ 政治的近代性、組織的
革命
→ 動世開闢(動世開闢)追
求

大巡思想

→ 文化的近代性、日常的
実践
→ 靖世開闢(靖世開闢)志
向

- 両思想の相關的思惟および自生的/脱近代性の解釈の
試み

相關的思惟研究

- 相關的思惟: 東洋傳統思想の核心、東學と大巡の解釈で注目される概念
- 儒教、道教、フラクタル科学にまで連結される広範な解釈枠
- 個別思想研究には適用されたが、両思想の比較研究には不足
- 主要研究者:

金亨孝

李昌一

郭信煥

鄭友鎮

朴正鎮

金氣

白承鍾

李奉浩

金白鉉

共時性研究とフラクタル科学

- 同時性:宗教と科学の統合的アプローチ
 - フラクタル科学、永遠哲学を通じた東西融合近代性の解釈
 - 全体が部分の中に反復されて現れるフラクタルパターンの研究
- 主要研究者:
 - 許薰:「永遠哲学(Perennial Philosophy)」を通じた大巡思想の展望
 - 朴炳訓:東学の降筆(降筆)研究を通じた共時性事例の発掘
- 国際科学と宗教学会(International Society for Science & Religion)を通じた持続的研究の展開

結論および今後の課題

- 東学思想と大巡思想研究の現況総合
 - 自生的近代性、相関的思惟、リミナリティなど主要キーワードの整理
 - パラダイム変化、以降の追加研究および方法論的拡張の必要性を提言
-

研究の方向性

- 東西学問の統合的アプローチによる韓国近代性の再解釈
- 現代の社会問題解決のための実践的含意の導出